

2026 年度 第 1 回鋼材規格三者委員会 議事録

1. 日 時： 2026 年 7 月 30 日（木）14:00～17:09

2. 場 所： ハイブリッド会議（対面：鉄鋼会館 701 号室＋Web：Microsoft Teams）

3. 出席者：（敬称略）

委員長：榎（東京工科大学）

副委員長：緒形*（物質・材料研究機構）、千葉*（関西学院大学）、藤原（EMF 応用計測）

委 員：相川*（日本水道協会）、荒井*（日本製鉄）、池田*（神戸製鋼所）、上原*（宇都宮大学）、
倉本（茨城大学）、近藤*（日産自動車）、種物谷*（高圧ガス保安協会）、
須恵（JFEスチール）、鈴木*（日本鋼構造協会）、高橋*（日本アルミニウム協会）、
辻村（桂）*（オーエスジー）、辻村（寿）*（日本金属継手協会）、富永（三菱重工業）、
中山*（日本海事協会）、蓮井*（日鉄SGワイヤ）、判治*（名古屋大学）、
藤井*（日本試験機工業会）、古市（日本検査キューエイ）、八木（謙）*（大同特殊鋼）、
八木（毅）（日本規格協会）、安永*（建築研究所）、山田*（東京大学）

（委員長・副委員長・委員計26名、*Web参加）

欠 席：栗原（日本伸銅協会）、桑原（東京農工大学）、富山（土木研究所）、
藤田（北海道大学）

幹 事：松本（鉄鋼連盟）

関係者：菊田（経済産業省）

（関係者計 1 名）

事務局：越川・井田・齊藤・玉田・田谷・山本（鉄鋼連盟）

（事務局計 6 名）

4. 議題及び配布資料

1) 報告事項

資料 1-1：2026 年度 第 1 回鋼材規格三者委員会名簿

資料 1-2：2025 年度 第 3 回鋼材規格三者委員会議事録

資料 1-3：2025 年度事業報告及び 2026 年度事業計画

資料 17：ISO/TC 17 活動状況

2) JIS 規格審議

＜改正＞

資料 2：JIS G 0561 鋼の焼入性試験方法（一端焼入方法）

資料 3：JIS G 3124 中・常温圧力容器用高強度鋼鋼板

資料 4：JIS G 3199 鋼板，平鋼及び形鋼の厚さ方向特性

資料 5：JIS G 3457 配管用アーク溶接炭素鋼鋼管

資料 6：JIS G 3458 配管用合金鋼鋼管

資料 7：JIS G 3478 一般機械構造用炭素鋼鋼管

資料 8：JIS G 3479 焼入性を保証した機械構造用鋼管

資料 9：JIS G 3507-1 冷間圧造用炭素鋼—第 1 部：線材

資料 10 : JIS G 3508-1 冷間圧造用ボロン鋼―第 1 部 : 線材
資料 11 : JIS G 3509-1 冷間圧造用合金鋼―第 1 部 線材
資料 12 : JIS Z 2276 金属材料の引張りラクセーション試験方法

< 追補改正 >

資料 13 : JIS G 3303 ぶりき及びぶりき原板

資料 14 : JIS G 3315 ティンフリースチール

< 制定 >

資料 15 : JIS G 1213-1 鉄及び鋼―マンガン定量方法―第 1 部 : ペルオキシ二硫酸アンモニウム酸化しゅう酸ナトリウム・過マンガン酸カリウム逆滴定法

資料 16 : JIS G 1213-2 鉄及び鋼―マンガン定量方法―第 2 部 : 過マンガン酸吸光光度法

資料 17 : JIS G 1224-1 鉄及び鋼―アルミニウム定量方法―第 1 部 : 8-キノリノール沈殿分離臭素酸カリウム・チオ硫酸ナトリウム逆滴定法

資料 18 : JIS G 1224-2 鉄及び鋼―アルミニウム定量方法
―第 2 部 : 鉄分離クロムアズロール S 吸光光度法

< 廃止 >

資料 19 : JIS G 1213 鉄及び鋼―マンガン定量方法

資料 20 : JIS G 1224 鉄及び鋼―アルミニウム定量方法

5. 議事内容及び結果

委員交代の紹介、議題・資料の確認及び榎委員長のご挨拶の後、以下の議事が進められた。

- 5.1 幹事から、委員会名簿及び 2025 年度第 3 回鋼材規格三者委員会の議事録が報告された。前回の議事録は、会議後に既に承認されており、特にコメントはなかった。
- 5.2 事務局から、2025 年度事業報告及び 2026 年度事業計画の報告があった。榎委員長から、ISO/TC 17/SC 16（鉄筋・プレストレストコンクリート用鋼）における、SDGs 認証制度に関する質問があり、事務局から、プロジェクト中止となった経緯が説明された。
- 5.3 JIS 規格審議案件の改正 11 件、追補改正 2 件、制定 4 件及び廃止 2 件について、事務局から内容が説明され、主に以下の質疑応答があった。
- 1) 榎委員長から、資料 4（JIS G 3199）の“破断面をだ円状の面積として、 d_1 及び d_2 は、だ円の軸に一致させる。”に関して、“面積”は不要ではないか、とのコメントがあった。担当主査から、“ d_1 及び d_2 は、破断面をだ円と仮定して、だ円の軸に一致させる。”の修文案が提示され、承認された。
 - 2) 八木委員から、資料 7（JIS G 3478）及び資料 8（JIS G 3479）の供試材の採り方に関する規定文「同一寸法及び同時熱処理の管○○○（○は数値）m ごと、及びその端数から、それぞれ一つの供試材を採取する。」について、“及びその端数”の直前の読点は不要、とのコメントがあり、修文することとした。
 - 3) 資料 2（JIS G 0561）及び資料 12（JIS Z 2276）について、担当主査から、コメント審議結果を反映し、経過報告書を修正することが申告され、承認された。
- 上記の他、改正・制定 JIS 案は、規格ごとのコメントテンプレートに記載されたとおり、修正することとし、改正 11 件、追補改正 2 件、制定 4 件及び廃止 2 件は、いずれも承認された。
- 5.4 事務局から、ISO/TC 17（鋼）の活動状況について、報告された。榎委員長から、原料スクラップに関する TR（技術レポート）について、また、菊田氏から、鉄鋼スラグの水膨張試験に

関する新規提案について、中国提案に対する国内対応に関する質問があった。事務局から、それぞれのプロジェクトに関係者がエキスパート参加しており、日本に不利益にならない様、提案の初期段階から国内意見を反映している状況が説明された。

- 5.5** 幹事から、次回鋼材規格三者委員会は、2026 年 12 月 18 日（金）午後に、ハイブリッド会議として開催することが報告された。また、2027 年度審議予定 JIS の事前調査表及び令和 8 年度定期見直し票については、昨年度同様、事前書面審議を行う予定であることが報告された。

以上